

多機能型重症児者等通所施設『すまいる畑』

医療的ケア児者と家族が集うオーベルジュ

医療的ケア児者・重症心身障害児者等の生活介護・放課後等デイサービス・ショートステイの建築計画

「生きる喜びや希望・幸せを感じられるつながりと交わりの場」として、医療的ケア児者や重度障害者がより自分らしく生きるため、苦痛や不安に翻弄されながら暮らす家族に寄り添うため、地域との交わりから互いの人間的成長を育むために『すまいる畑』を計画します



社会福祉法人 道のこれまでとこれから



これまでの活動が書籍となりました

地域包括ケアステーション 森のお家

多機能型重症児者等デイサービス『ふぁみりい』

- 児童発達支援
- 生活介護
- 放課後等デイサービス
- ショートステイ
- 日中一時支援
- 保育所等訪問支援
- 居宅訪問型児童発達支援

特定相談支援・障害児相談支援『ちゃれんじ』

訪問看護ステーション『ふれんず』

+ 本申請事業 **移設**

多機能型重症児者等通所施設『すまいる畑』

これまで

平成26年に友人看護師6人でつくった「ふれんず」。2年後に「ちゃれんじ」を開設し、「ふぁみりい」の指定を受け、平成30年に「地域包括ステーション森のお家」を開所しました。当初「ふぁみりい」ではショートステイの予定はありませんでしたが、多くのニーズを受けて相談室と静養室の用途を変更し、ショートステイの受け入れを実施しました。20名以上の看護師をはじめ、多くの専門資格者が在籍していることからは可能となりました。現在、利用者もスタッフも増え、建物としての「森のお家」ではもう狭くなりました。それに応じて、「森のお家」から徒歩2分の近接した場所に新たな施設を計画します。

これから

多機能型重症児者等通所施設『すまいる畑』は、特別支援学校などを卒業した18歳からの社会活動としての「生活介護」と、多様な性格をもつ「ショーステイ」を主用途とします。キッチンを街角に開いて設置し、「食」を基軸に地域とつながり、だれでも訪れたいところ、訪れることができる場所をつくりたい。「すまいる畑」を中心に、利用者はより社会的な活動として菜園で野菜を育て収穫したり、調理に参加することを可能にします。ケアスタッフに見守られながら、家族同士で食事を共にし、ゆっくりした時間を過ごすことができます。



既存施設 ぶぁみりいでの日常



これまで

公民館の調理室で利用者家族とともにスーブづくりなどの料理教室を開催



これまで

ショートステイは「ふぁみりい」の一部を利用し2名定員でおこなっていた



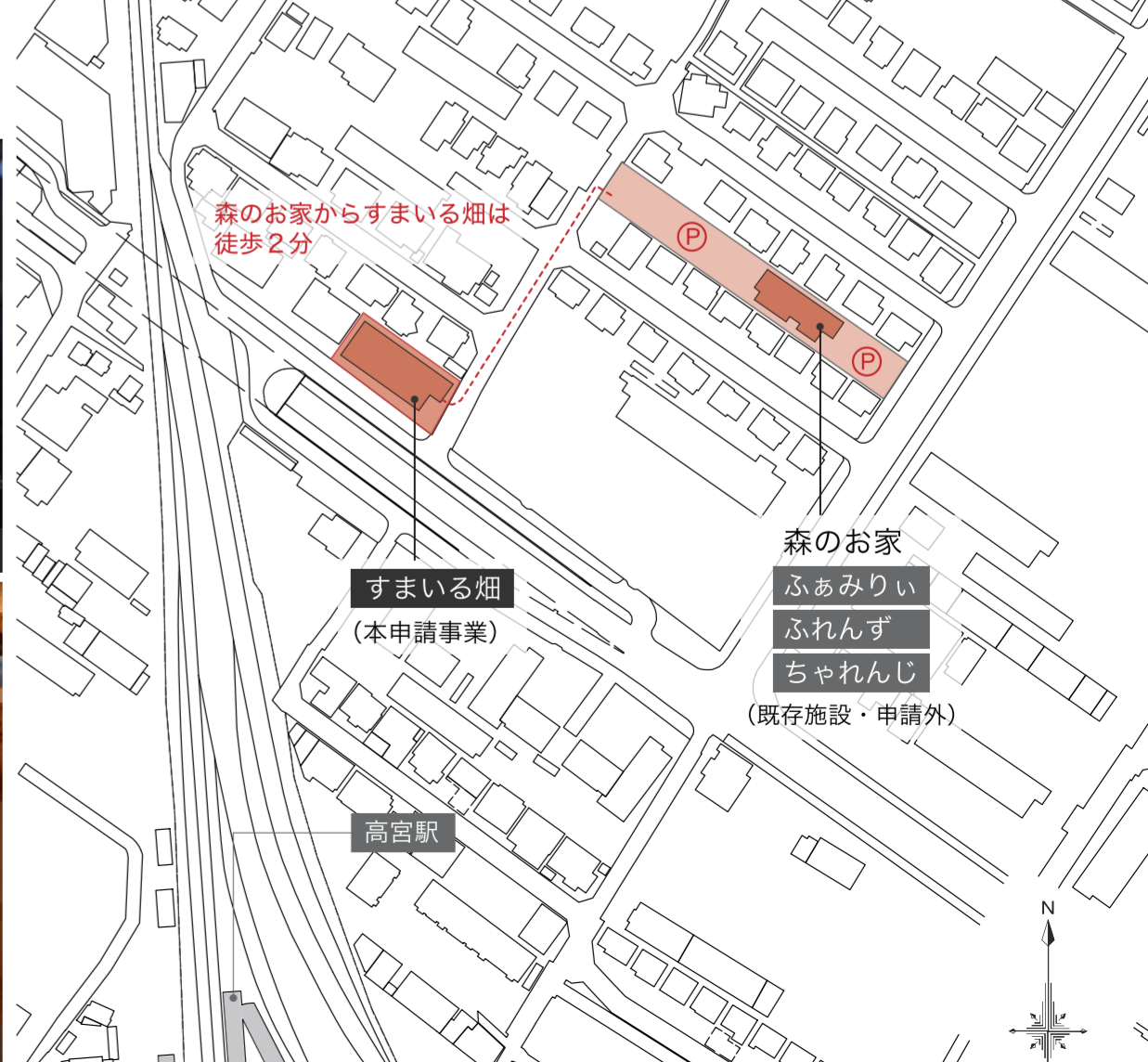
これから

すまいるキッチンで野菜の収穫・スーブづくりなどを日常的におこなう



これから

定員を増やすと共に、複数の家族と一緒に宿泊することも可能にする



計画概要

小さな駅にほど近い住宅街に多機能型重症児等通所施設『すまいる畑』を計画します。キッチンや街に開いて誰でも訪れることができる場所とします。命に通じる「食」を大切に、利用者とスタッフが一緒に野菜を育て、スープなどを調理します。利用者家族同士が集い、オーベルジュのように食を楽しみながら宿泊することもできます。

利用者と家族にとっての『すまいる畑』

利用者が自らの力を活かして成長する社会活動の場として、キッチンや菜園を使いやすくとともに、そこを地域との接点として計画します。昼間（生活介護）は野菜の水やりや調理などで「食」に関り、夜（ショートステイ）は安心して過ごせるよう配慮します。オーベルジュのような雰囲気でお食事を楽しみ、家族と一緒に宿泊することも可能とします。

スタッフにとっての『すまいる畑』

視認性を妨げることなく常に全体を見渡すことができるように、というスタッフの考えに基づき、ひと続きの間取りとしつつ、天井高さを変化させ、柱で区切った小間を設けてそれぞれの場所の特徴を変えることで、時間によって変わる用途に対応します。ゴミ出し動線を短くするなど、日常の労働を少しでも軽くするプランとします。

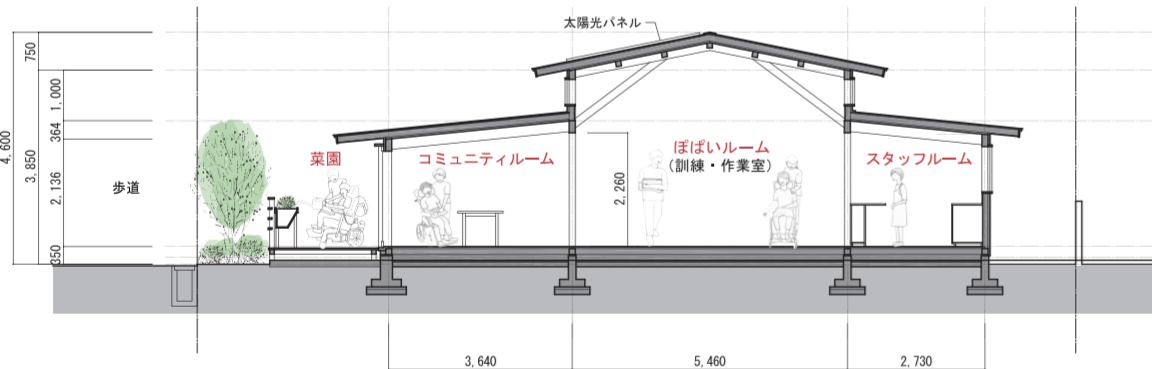
地域にとっての『すまいる畑』

食をテーマに人（利用者、家族、家族間、職員、地域）のつながりを大切にした施設運営を目指す事業者の計画に基づき、キッチンや街に向かって開いて設置し、それに連続してテラス+菜園を設けます。そこは誰でも訪れることを可能とします。プランターで育てた野菜を収穫する利用者、下校時の小中学生が緩やかに会える場面などが想像できます。絵本を読むため、アールブリュットを観るためなど、室内も誰もが自由に訪れることができます。

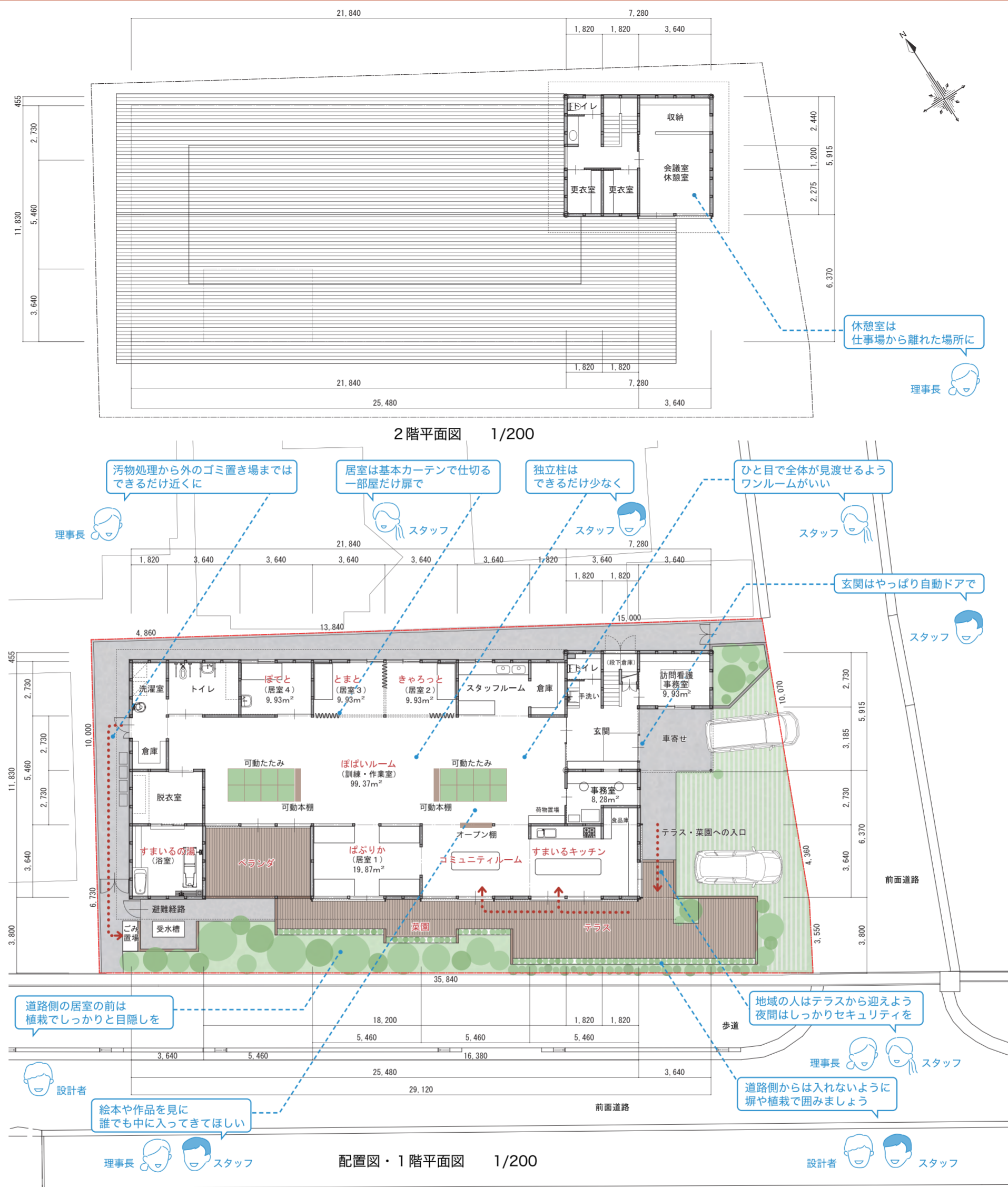
建築概要

地域 市街化区域、第一種住居地域
 構造 木造2階建て
 面積 敷地面積 603.34 m² (182.5坪)
 1階床面積 308.10 m² (93.2坪)
 2階床面積 43.06 m² (13.0坪)
 延べ面積 351.16 m² (106.2坪)
 用途 多機能型重症児等通所施設
 医療的ケア児者・重症心身障害児者等の放課後等デイサービス・生活介護・ショートステイ

主な外部仕上
 屋根：亜鉛合金板平葺き
 軒裏：杉板張り、化粧野地板・垂木現し
 外壁：杉板張り塗装、焼き杉板張り
 開口部：木製建具、アルミ樹脂複合サッシ
 主な内部仕上
 床：天然木フローリング張り
 壁：漆喰塗り（PB下地）
 天井：化粧野地板・小屋組現し、漆喰塗り（PB下地）



断面図 1/150



配置図・1階平面図 1/200



建物高さを抑えながらも視認性はよく、地域の人々が訪れたい外観とし、キッチンとテラスを開いていることを明確にして人を誘います



華やかな屋外照明は控えて内部の灯りがもれる暖かい建築とします



大きな空間と小さな空間を組み合わせ目配りの良さと居心地の良さを両立させます



すまいるキッチンや街を開き「食と命」について学ぶ活動をすすめます



家族を対象にした料理教室、地域の人々と交わる料理教室を開催します



絵本を読むため、アールブリュットを観るためなど、誰もが自由に訪れることができます